



だより



R6.12.10 Vol.31

愛のみかん運動



去る11月27日、今年で71回目となる愛のみかん運動を実施しました。詳細は、私より子供たちや保護者の方のほうがよくご存じだと思うので、省略!(笑)だいぶ前にPTA会長さんと雑談した際、こんなことをおっしゃっていました。「この運動は僕が子供の時も取り組んでいたんです。自分が手伝いをしてもらったみかんが誰かに喜んでもらっていることをとても嬉しく、そして誇らしく思っていました。親という立場になったが、自分の子供たちにもその気持ちを味わってほしいと思っています。」歴史や伝統というのはこういうことなんだと思いました。愛のみかん運動!親から子へ、子から孫へずっと続いてほしいと思います。



校長先生!

朝、登校指導に出ていると、止まっているトラックの中から、「お!校長先生!夏に除草した校舎の裏のそこ!効きがイマイチやったんよ!またやっとくけん!」と地域の方に声をかけていただきました。なぜか、ふっと心が温かくなりました。「よし!今日も頑張らなくては!」と気力が満ちてくるのを感じました。歩いている私に走っている車の中から、軽く頭を下げてくださる方もいます。子供たちの「おはようございます!」の挨拶にクラクションで返してくれる方もいます。

どれも朝の景色の中のほんの数秒のことです。でもなんか温かいんですね。

俵万智さんが詠んだ歌を思い出しました。

「寒いねと話しかければ寒いねと答える人のいるあたたかさ」



四方山話真穴 ver. 其の三十一(コップに水が半分…)

コップに水が半分…物事の捉え方としてよく聞く話ですよ。「半分もある!」と捉えるか「半分しかない!」と捉えるかで自分の感情は大きく変わってきます。さてみなさんはどちらで捉えますか?

私は元来、心配性でどちらかというとながティブに物事を捉える癖があります。その自分の性格が嫌でたまらなくなることもしばしばです。(いつも好きなこととして毎日楽しそうですね〜と、からかわれるばかりですが…)

が、物事は捉えようによって180度変わることもこれまたしばしばです。「心配性であることは人間が生き延びていくために遺伝子に組み込まれているものである!」なんて話を聞いたこともあります。未知の(あるいは未来の)危機に対してどう対応するか考えを巡らす(心を配る)ことで人類は生き延びてきた。そんな話でした。性格は変わりませんが、捉え方を変えるだけで感情はかなり違ったものになります。そして私はいらち(方言でしょうか?)でもあります。(最悪な管理職…)会議が長引くともうダメです。「なんで時間を守れない??」怒りに近い感情がそこに集約されます。どう捉え方を変えたらいいのか。戦いの始まりです。「丁寧に説明してくれているのだ!」「怒ったらおとなげないぞ!雅人!」「この長引いた時間のおかげで、帰りは事故に遭わないのかもしれない…」アンガーマネジメントに近い感覚です。その孤独な戦いに疲れ切る頃、会議は終わります。(ですから内容は全く頭に入りません。笑)あら?何が言いたかったんだろ?話がえらく脱線しました…。

あ!そうそう!(笑)私たちは明日は来るものと信じて生きています。でも捉え方を変えると、明日は来ないかもしれない(何が起こるか誰にも分かりません)と捉えることもできる。そう考えると、この怒っている時間ってもったいないですよ。生きて人と関わっているこの時間を愛しく思えるかもしれません。幸せになるためにも「別の捉え方は?」と考える癖をつけたいものです。(おまえがな!はい…すみません…)